

## 4bunno3.com 「4bunno3BAG」の販売促進企画 ～4bunno3BAGを広めるために～

チーム「ほにゃららさまあず」

小林 あんず（リーダー）

藤井 更紗（記録等）

山崎 麻彩（デザイン）

### I. はじめに

私達「ほにゃららさまあず」は、「4bunno3.com」様が抱く「足りないくらいがちょうどいい」という考え方に惹かれ、当社の「4bunno3 BAG」の販売促進企画に取り組むことにしました。

この商品は、製造工程の4分の3を知的障害者が担当しています。4bunno3BAGが訴えかけている社会の課題は何なのか。私達はこの企画に取り組むにあたり、このことについて深く考えさせられました。以下は、4bunno3BAGの想いを広めるために試行錯誤したこれまでの記録です。

### II. コラボ企画スタート

#### 1. 「ほにゃららさまあず」結成 2013.6.20

全5チームの中、唯一の女の子グループが結成。商品は4bunno3.com様の「4bunno3BAG」に決定しました。

まずは4bunno3.comや、製造を担当しているワークスペース夢工房、他の障害者福祉施設が作る商品など、関係する調査項目を洗い出し、インターネットでの資料収集やフィールド調査を進めました。各自、調査項目を分担し、打ち合わせで報告するというスタイルを基本として進めていきます。



### III. 夏休み前半（調査）

#### 1. 北村様へのヒアリング調査 2013.8.3

4bunno3.com代表メッセージである北村尚弘様を訪ね、約3時間に渡るヒアリング調査を行いました。

北村様の「人こそ最大最高の資産であると本音で言える社会を創る」というお考えや「足りないくらいがちょうどいい」という4bunno3 BAGのコンセプト等について、この商品への想いや製作に至った経緯を中心に、ターゲット層やデザインの制約などもふまえ、お伺いする事が出来ました。

障害者の雇用が促進され、一般就労が進んでいる現在です。「人こそが最高の資産である」と企業や社会では言われていますが、現実問題として、果たして企業にとっての障害者は資産なのか負債なのか。こうした問題に対して、「障害者雇用のあこがれモデル」を作るという想いからこのバッグは誕生しました。将来、こ



のバッグを障害者支援のための「福祉商品」ではなく、「一般の商品」として買って貰えるようにすることが目標です。

## 2. ここまでの調査で明らかになった課題

- ①想いを届けたい層（高校生などの若者）に伝わっていない
- ②現在のターゲット顧客とのコミュニケーションが上手くとれていない

これらの課題に対し、障害者雇用に関する雑誌を販売する「コトノネ」様への取材や、社会貢献型の商品を取り扱うお店を取材した際の経験などを活かしながら調査を進め、企画を練っていきました。

## IV. 夏休み後半（中間発表と企画方向決定、夢工房訪問）

### 1. 中間発表 2013.9.5

各グループが集まった中間報告では、プレゼンのコンセプトを「社会的居場所を一緒に考える」にしました。各種調査で明らかになった現状分析と、コトノネ様の「障害者への意識が異なる3つのタイプ」という資料から「支援者・共感者」と「無関心層」の2つに分けてアプローチ案を考え、プレゼンを行いました。「無関心層」のターゲットを高校生に設定したことから、制服を着てプレゼンをしました。



### 2. ワークスペース夢工房訪問 2013.9.20

4bunno3BAG の実際の製作現場を調査するため、長野県にある知的障害者の方々が働いている「ワークスペース夢工房」様を訪問しました。ここでは、彼らが仕事をする上での特徴や課題、それらに配慮した作業環境のあり方などについて、お伺いすることができました。

知的障害者は健常者のように、仕事でのストレスを余暇でリフレッシュするということが困難だそうです。そのため、仕事が当人の得意とする仕事であるか、適職であるかといった配慮がより重要になってくるそうです。

一方で、「多少は健常者と同じような辛い仕事をする経験も必要である」という意見も存在します。これに対し、ワークスペース夢工房様では、「それぞれが楽しんで仕事ができること」を大切にしています。「ひとりひとりの想いや意見を聞き、そこから次にどう繋げていくかが大切。それは一般就労なのか、またはこのまま事業所で働き続ける事なのかは個人次第。最終的に、知的障害者が“幸せ”に働けるようにしたい」ということをビジョンに掲げています。



## V. 提案 2013.10.10

いよいよ北村様へのプレゼンの日です。3人がとても緊張している中、北村様は相変わらずの笑顔で迎えてくださいました。

中間発表時の企画内容に「発信者」というターゲットを新たに加え、4bunno3BAG の今後の展開について提案を加えながらプレゼンを行いました。コンセプトは「伝える。広める。社会の居場所」、デザインコンセプトは「無限の色彩～Infinite colors～」でした。北村様からは、以下のようなコメント

を頂きました。

2013年にAPSP主催『ソーシャル・プロダクツアワード』を受賞したことがご縁で、専修大学の学生さんとのコラボのお話を頂きました。過去にも同様のご提案を頂いたこともあり、その際は当方とあまりコミュニケーションも取らず、一方的な提案を示す学生さんたちが多かったという印象でしたが、今回はまるっきり違いました。

私に会うことはもちろん、製作現場である長野の工房にも足を運び、仕事に関わる人たちの現場の姿を見て感じた上で、当方の想いや価値観を見極めようとしてくれました。そのスタンスに心を打たれ、出来る限りの協力を惜しまないと思えるに至りました。

チームワークの良いメンバーが揃っており、小林さんのリーダーシップとムードメイク、山崎さんの本質理解力とデザインセンス、藤井さんの全体俯瞰しながらのメンバーサポート力と、全員が役割を持ち機能していましたし、高いモチベーションを伴っていましたから、一緒に仕事をして楽しいと感じることが多かったです。

結果、最終的なアイデアをいくつか実際に採用させて頂くことにしました。今回の機会を頂いたことに心より感謝申し上げます。

## VI. 最後に

今回の取り組みで、初めて知的障害者の就労問題について深く考えるとともに、こうした社会問題に対する自分たちの認識の甘さを痛感しました。この問題の解決に向けて、全力で活動しているたくさんの方々に会い、その情熱を肌で感じ、この問題をより多くの人に認知してもらいたいという想いで企画作りに注力しました。

私達は、北村様の「人こそ最大最高の資産であると本音で言える社会を創る」というビジョンに少しでも近づけるようと試行錯誤してきました。しかしその予想以上の難しさに、それだけ大きな問題であること、またその大きさから、これは社会全体で取り組み、解決すべき課題であるということを感じました。

私達だけの力だけでは社会に大きな影響を与えることは難しいですが、今後ともこの運動がより多くの人々に認識されるよう、応援し続けていこうと思います。